

自動車
点検整備推進
強化月間
2005 October

www.tenken-seibi.com

はじめよう、クルマに愛情点検。

私にも、できる。

点検お知らせ隊長 遠藤久美子

大切な車を安全に走らせるには、日常点検と定期点検、両方、しっかり行うことが必要です。



じぶんでできる

カンタン 日常点検



バッテリー
液の量



タイヤの
空気圧



ランプ類の
点灯・点滅



ワイパの
拭き取り能力



ブレーキの
踏みしろときき具合

推進／国土交通省、自動車点検整備推進協議会

(社)日本自動車工業会、(社)日本自動車整備振興会連合会、(社)日本自動車販売協会連合会、(社)日本中古自動車販売協会連合会、(社)全国軽自動車協会連合会、日本自動車輸入組合、(社)日本自動車連盟、(社)全国自家用自動車協会、(社)日本バス協会、(社)全日本トラック協会、(社)全国乗用自動車連合会、(社)全国レンタカー協会、(社)日本自動車タイヤ協会、全国石油商業組合連合会、(財)自動車検査登録協力会、(財)日本自動車教育振興財団、(社)日本損害保険協会、全国共済農業協同組合連合会、全国労働者共済生活協同組合連合会、(社)日本自動車部品工業会、(社)全国自動車部品商団体連合会、全国自動車電装品整備商工組合連合会、自動車用品/小売業協会、(社)電池工業会、全国ディーゼルのポンプ振興会連合会、日本自動車車体整備協同組合連合会、全国タイヤ商工協同組合連合会、(社)日本自動車車体工業会、全国自動車部品販売店連合会、日本自動車部品協会、(財)日本自動車輸送技術協会 (順不同)
後援／内閣府、警察庁、環境省 協力／自動車検査独立行政法人、軽自動車検査協会、独立行政法人自動車事故対策機構

上記の点検項目は15のチェックポイントの中の一部です。

車を安全に走らせる第一歩が、日常点検です。 その上で、定期点検をかならず実施してください。

車を安全・安心に走らせるには、ユーザーの義務である日常点検と定期点検が大切です。定期点検は、1年ごとに点検を行う項目が細かく決められており、整備のプロに任せただけが安心です。それに加えて、大切なのが、日常点検です。車は、走行や時間の経過により、各箇所や部品が摩耗、劣化していきます。日頃の細やかな点検をするだけで、自分を含め、大切な人も、歩行者も、守れることを知ってください。

●日常点検のタイミング 洗車・給油時に / 長距離ドライブ前に、高速走行前に / 気づいた時に など

●定期点検のタイミング 定期点検 定期点検 定期点検／車検 定期点検 定期点検／車検

新車登録 (自家用乗用) 1年目 2年目 3年目 4年目 5年目 ... これ以降も、1年に1回定期点検

まずは日常点検。15のチェックポイント。

ブレーキ

CHECK POINT 1 ブレーキの踏みしめるときき具合



エンジンをかけてから、ブレーキを踏み込んだ時に、しっかりと踏みこたえがあるか、踏みしめるときき具合が適当かを確認。違和感がある場合は、整備のプロに相談。

CHECK POINT 2 駐車ブレーキの引きしろ (踏みしろ)



駐車ブレーキのレバー (ペダル) をいっぱい引いた (踏んだ) 時に、引きしろ (踏みしろ) が多すぎたり、少なすぎたりしないかをチェック。異常があったら、整備のプロに相談。

走行

CHECK POINT 3 エンジンのかかり具合・異音



エンジンが速やかに始動し、スムーズに回転するかを点検。エンジン始動時とアイドリング時で、異音がないかもチェック。異常を感じたら、整備のプロに相談。

CHECK POINT 4 エンジンの低速・加速状態



暖機状態で、アイドリング時の回転がスムーズか、徐々に加速した時に、アクセルに引っかかりがないか、エンストやノッキングを起こさないかをチェック。異常時は、整備のプロに相談。

視界・ウィンドウ

CHECK POINT 5 ウィンド・ウォッシャの噴射状態



ウィンド・ウォッシャ液を噴出させ、その向き、高さが適当か見ます。うまく噴出できない場合は、ノズルの掃除・調整を。

CHECK POINT 6 ワイパの拭き取り能力



ワイパを動かし、低速・高速でちゃんと作動するか点検。ウォッシャ液をきれいに拭き取れるかもチェック。ワイパ・ブレードの拭き取り能力が落ちている場合は、交換。

エンジンルーム (火気厳禁)

CHECK POINT 7 ブレーキ液の量



ブレーキ液のリザーバー・タンクを見て、液量 (ブレーキ・フルード) が上限ラインと下限ラインとの間にあるかチェック。下限ラインより下回っている場合は、整備のプロに相談。

CHECK POINT 10 バッテリー液の量



バッテリーの液量が規定範囲内にあるかチェック (UPPERとLOWERの間)。不足している場合は、専用液を補充。バッテリー液は腐食性が強いので、注意。

外回り

CHECK POINT 12 ランプ類の点灯・点滅



車には、多種多様なランプが装着されています。このランプ類がすべて正常に点灯・点滅するかを確認し、汚れや破損もチェック。点灯・点滅していない場合は、すみやかに交換。

CHECK POINT 8 冷却水の量



冷却水を貯めておくリザーバー・タンクは、外側から冷却水の量が目で見えます。その量が上限ラインまで入っていれば、OK。下限ライン以下の場合、補充。

CHECK POINT 11 ウィンド・ウォッシャ液の量



ウィンド・ウォッシャ液の量が適当かどうかを点検。不足すると、ガラスの汚れを落とせず、視界を確保できないため、危険。こまめに補充を。

CHECK POINT 13 タイヤの亀裂・損傷の有無



タイヤの亀裂や損傷の有無を目や指で確認。併せて、異物が付着していないかをチェック。亀裂・損傷があったらタイヤ交換を。また、タイヤが片減りしているときは、整備のプロに相談。

CHECK POINT 9 エンジン・オイルの量



エンジンをかける前に、オイル・レベル・ゲージを抜き、オイルを拭き取ってから、ゲージいっぱい差し込んでオイル量をチェック。ゲージ先端の上限、下限のマークの範囲内であれば、OK。下回っている場合は補充。汚れている場合は交換。

CHECK POINT 14 15 タイヤの空気圧/タイヤの溝の深さ



タイヤの空気圧が適当かどうか点検。接地部分のたわみ具合はもちろん、タイヤゲージを使って確認。空気圧が低いと燃費が悪く、高いとハンドル操作が難しくなります。また、タイヤの溝の深さが浅くないかをスリップ・サインを目印に、チェック。



※スリップ・サインは、タイヤ側面の三角マークのある位置の接地面に、1.6mm以下になると現れます。

